

物流技術管理士 資格認定講座

CERTIFIED LOGISTICS MASTER COURSE

第131期

名古屋開催

2018/9/5(水)～2019/3/8(金)

本講座開講

25周年

1993～2018



受講対象

物流に関する基本的な用語を理解している方
(目安として、物流実務経験2年程度)

もしくは

「物流技術管理士補」の有資格者

※「物流技術管理士補」は当協会が開催している「物流技術管理士補資格認定コース(旧物流技術管理士補スクーリング)」を修了した方に授与される資格です。

本講座の特色

- 企業の物流・ロジスティクスから全体最適を実現するスペシャリストを育成します。
- 実務経験豊富な講師陣の指導の下、専門知識のみならず実務への応用についても学ぶことができます。
- 各講義に、講義内容のポイントを確認する時間を設け、目的意識を醸成します。
- ケーススタディを含めた個人演習・グループ演習を通じ、実践力の強化を図ります。
- 受講レポートや論文の作成を通じて、今後自社で取り組むべき課題や改善施策を検討します。
- 様々な業種、立場の方々との交流を通して、企業の垣根を越えたヒューマンネットワークが構築できます。

第131期 物流技術管理士資格認定講座 開催にあたって

物流・ロジスティクスを取り巻く環境は大きく変化しております。例えば、EC市場の発展に伴い宅配便の取扱個数は高く推移しており、ドライバーをはじめとする深刻な労働力不足が重なり、物流コストを押し上げております。また、ASEAN各国をはじめとした新興国の経済発展は、次なる巨大市場として注目される一方で、更なる競争の激化が予想されます。

これらの問題に対処するためには、サプライチェーン上の各プレイヤーが連携し、物流・ロジスティクスの効率化や高度化を推進していく必要があります。その強力な推進役として、物流・ロジスティクスの専門知識や管理技術を有したスペシャリストが欠かせません。

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、物流・ロジスティクスのスペシャリスト育成の場として「物流技術管理士資格認定講座」を内容の改善を図りながら25年にわたり開催しております。本講座では実務経験豊かな講師陣から体系的かつ具体的な知識と技法等を学び、個人・グループ演習による応用力、実践力の強化を図るとともに講師、受講者相互のヒューマンネットワークの構築も支援いたします。これまで約10,000名を超える物流技術管理士が誕生し、各方面で活躍しております。貴社の企業価値向上に寄与する人材を育成するために、ぜひ本講座を積極的にご活用されることを期待しております。

能力開発委員会
物流技術管理士専門委員会
成蹊大学 名誉教授
渡邊 一衛



●物流技術管理士とは

複数の物流業務を全体最適の視点から管理し、物流品質の向上や効率化策を実践する管理者や、分析的な手法から物流現場を改善する施策を立案し、実行計画を推進するリーダー等の「物流・ロジスティクスのスペシャリスト」＝「物流技術管理士」です。

【物流技術管理士の要件】

- ①物流・ロジスティクスの全領域にわたる専門知識や管理技術を有し、実務で活かすことができる。
- ②現状を把握し、ありたい姿（目標）を描き、そのギャップから問題発見、解決すべき課題を設定することができる。
- ③課題を解決するための方策を立案し、関係者の理解を得て、協力しながら実行することができ、さらにその効果を評価することができる。
- ④全体最適を志向し、幅広い視点で改善策や新たなサービスを企画することができる。
- ⑤社内外の関係者や顧客に対し、提案、提言ができる。

▶企業における物流技術管理士の役割

荷主企業（製造業、流通業）

- ・QCD（品質、コスト、納期）の観点から最適な物流ネットワークを設計することができる。
- ・自社内の関係部門や他社と連携し、物流コスト削減や在庫の適正化を推進できる。
- ・提案依頼書（RFP）を作成し、物流業務の委託先（パートナー）の選定、評価ができる。

物流企業（物流子会社、物流事業者）

- ・QCD（品質、コスト、納期）に係る定量的な指標を用いて、物流業務を管理することができる。
- ・全体最適の視点から業務に取り組み、コスト削減、品質・生産性向上を推進できる。
- ・荷主企業の物流実態を適切に分析し、問題点を把握したうえで、適切な品質・コストを踏まえたソリューションを立案、提案することができる。

その他（情報システム業、人材派遣業等）

- ・コスト削減や品質向上等、顧客企業の物流・ロジスティクスにおけるニーズに的確に対応した製品やサービスを提供することができる。
- ・顧客企業の物流・ロジスティクスの実態を分析し、問題解決につながる施策において、新たなサービスや製品を企画・開発をすることができる。

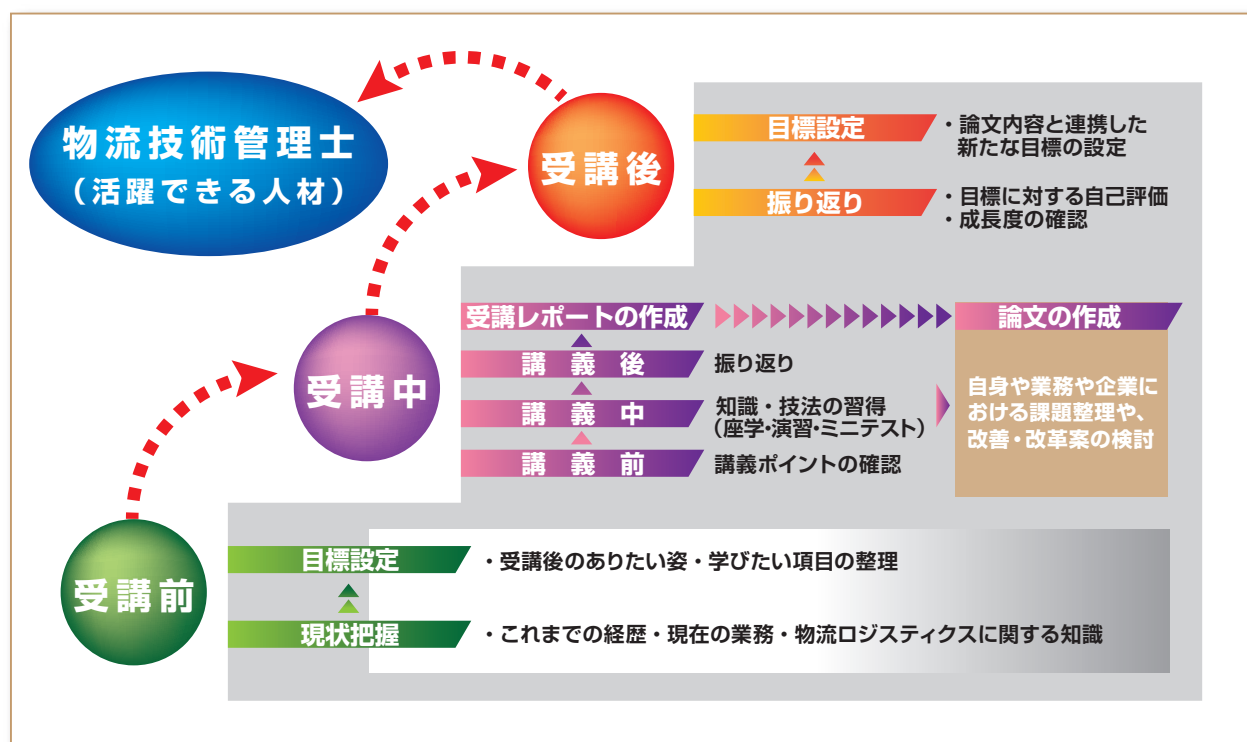
2018年度物流技術管理士資格認定講座開催日程

単 元	開催期 開催場所	129期 東京	130期 大阪	131期 名古屋	132期 東京	133期 大阪
プレミーティング		2018年5月9日（水）	2018年6月6日（水）	2018年9月5日（水）	2018年9月12日（水）	2018年10月3日（水）
		2018年5月10日（木）	2018年6月7日（木）	2018年9月6日（木）	2018年9月13日（木）	2018年10月4日（木）
1単元		2018年5月24日（木）	2018年6月20日（水）	2018年9月19日（水）	2018年9月26日（水）	2018年10月18日（木）
2単元		2018年5月25日（金）	2018年6月21日（木）	2018年9月20日（木）	2018年9月27日（木）	2018年10月19日（金）
3単元		2018年6月6日（水）	2018年7月4日（水）	2018年9月26日（水）	2018年10月10日（水）	2018年11月6日（火）
		2018年6月7日（木）	2018年7月5日（木）	2018年9月27日（木）	2018年10月11日（木）	2018年11月7日（水）
4単元		2018年6月13日（水）	2018年7月26日（木）	2018年10月11日（木）	2018年10月24日（水）	2018年11月21日（水）
		2018年6月14日（木）	2018年7月27日（金）	2018年10月12日（金）	2018年10月25日（木）	2018年11月22日（木）
5-6単元		2018年7月10日（火）	2018年8月7日（火）	2018年10月17日（水）	2018年11月8日（木）	2018年11月27日（火）
6単元		2018年7月11日（水）	2018年8月8日（水）	2018年10月18日（木）	2018年11月9日（金）	2018年11月28日（水）
7単元		2018年7月25日（水）	2018年8月28日（火）	2018年11月6日（火）	2018年11月21日（水）	2018年12月12日（水）
		2018年7月26日（木）	2018年8月29日（水）	2018年11月7日（水）	2018年11月22日（木）	2018年12月13日（木）
8単元		2018年8月9日（木）	2018年9月13日（木）	2018年11月15日（木）	2018年12月5日（水）	2019年1月10日（木）
9-10単元		2018年8月10日（金）	2018年9月14日（金）	2018年11月16日（金）	2018年12月6日（木）	2019年1月11日（金）
11単元		2018年8月21日（火）	2018年9月25日（火）	2018年12月6日（木）	2019年1月16日（水）	2019年1月24日（木）
12単元		2018年8月22日（水）	2018年9月26日（水）	2018年12月7日（金）	2019年1月17日（木）	2019年1月25日（金）
13単元		2018年9月5日（水）	2018年10月11日（木）	2019年1月17日（木）	2019年2月6日（水）	2019年2月19日（火）
		2018年9月6日（木）	2018年10月12日（金）	2019年1月18日（金）	2019年2月7日（木）	2019年2月20日（水）
面接試験		2018年9月29日（土）	2018年11月10日（土）	2019年2月16日（土）	2019年2月23日（土）	2019年3月2日（土）
資格認定証授与式		2018年10月26日（金）	2018年12月7日（金）	2019年3月8日（金）	2019年3月15日（金）	2019年3月22日（金）

※諸事情により、内容・日時等を変更する場合がございますので、ご了承ください。

より実務で成果を出していただくために

本講座では、受講者の方が受講前から受講後に至るまで、常に高い目的意識を持ちながら受講し、「自分が掲げた目標を達成する」、「受講後に多方面で活躍できる人材に成長する」等の実現に向けた、仕組みを導入しています。



●カリキュラムの特徴

実務経験豊富な講師陣から学んだ知識や技法を実務で応用するために、「自分自身やメンバー同士で考える」グループ演習、個人演習、ミニテスト等を取り入れています。

資格認定について

- 出席要件について：全講義日数18日のうち、14日以上出席すること。
- レポートについて：前期・後期2回の受講レポートを提出すること。
- 試験について：①客観試験・②論文試験・③面接試験それぞれの得点が合格基準点（6割以上）を満たし、総合得点が60点以上であること。

①客観試験

客観試験とは、講座で学んだ内容の習熟度を測るために実施する筆記試験です。前期・後期の2回に分けて実施されます。試験問題は、講義で学習したポイントとなる内容を中心に、正誤問題、選択問題、穴埋め問題、計算問題等の形式で出題されます。

②論文試験

講座で学んだ内容を活用しながら、5,000字～6,000字の論文を作成します。論文のテーマは自身の業務や企業における改善や改革に関するものとなります。物流・ロジスティクスの全般知識に加えて、第三者の理解を得るための論理的思考力や文章作成力が問われます。また開催期ごとに優れた論文を選定し、優秀論文として表彰を行っています。

③面接試験

作成した論文の内容について、第一線で活躍されている企業人、学識経験者、コンサルタントの方々と構成される物流技術管理士専門委員会の委員2名との面接試験を行います。面接試験では、自身の作成した論文を第三者への説明、質問に分かりやすく回答するプレゼンテーション能力が問われるとともに、質疑応答を通じて講義内容を踏まえた物流・ロジスティクスの理解度が確認されます。

【各試験の配点（括弧内は合格基準点）】

客観試験		論文試験		面接試験		減点		総合得点
前期・後期合計 30点満点 (18点以上)	+	40点満点 (24点以上)	+	30点満点 (18点以上)	-	①欠席減点 ②受講レポート 提出遅延減点	=	100点満点 (60点以上)

第131期物流技術管理士資格認定講座 カリキュラム

プレミーティング

講座初回の講義となるプレミーティングでは、グループ演習を通じて、問題発見、課題抽出及び課題解決技法について学ぶとともに、受講者間のヒューマンネットワークの構築を図ります。

会場：
名古屋銀行協会

日時	講義名称	講義内容	講師
9月5日(水)	9:30-18:00 開講式 オリエンテーション グループ演習 問題の発見と解決	オリエンテーションでは、講座の進め方、資格認定規程、論文試験のテーマ等をご説明します ブレインストーミングやKJ法等を用い、問題の発見と現状の把握、要因解析、対策の立案までの進め方と学び、実務で活用いただくことを狙いとしております ※グループ演習では、約10名程度のメンバーでディスカッションを行い、最後に発表を行います ※名刺を多めにご用意ください	中野 昭男 氏 のぞみ経営研究所 所長 (第21期物流技術管理士) 右田 政三 氏 (株)ヨコエインタープライズ 顧問
	18:30-20:00 ◆懇親会		
9月6日(木)	9:30-17:00 グループ演習 問題の発見と解決、発表・講評		
	17:00-17:10 振り返り 〈プレミーティング〉		

第1単元

経営とロジスティクス

企業の経営環境が大きく変化する中、ロジスティクスのさらなる高度化が求められております。本単元では、経営の視点から、ロジスティクスの役割、顧客サービスの考え方及び情報システムの役割・機能等について学びます。

会場：
名古屋銀行協会

日時	講義名称	講義内容	講師
9月19日(水)	9:30-12:40 1. 企業価値を高める ロジスティクスの役割	物流・ロジスティクスの定義と進化及び重要性、企業価値の向上とロジスティクス活動の関係 等	飯田 正幸 氏 日本ロジスティクスシステム協会 JILSアドバイザー
	2. ロジスティクスにおける 顧客サービス	企業活動における顧客サービスとは、ロジスティクスにおける顧客サービス項目、これからの顧客サービスの方向性 等	
	13:40-15:10 3. ロジスティクス戦略	これからの経営戦略方向、ロジスティクス改革を実現する視点、ネットワーク再構築における狙いと目的、事例 等	小澤 勇夫 氏 (株)日本能率協会コンサルティング 取締役 ラーニングコンサルティング事業本部 本部長
	15:20-17:40 4. ロジスティクス IT 概論	IT 活用の現状・取り組み状況 (IoT、ビッグデータ等)、情報システムの役割、情報システム化のポイント 等	植村 邦夫 氏 (株)ユーロジブラニング 代表取締役

第2単元

物流コスト管理

物流コスト管理は本講座における重要なテーマであり、物流・ロジスティクスの全領域に関わるものです。物流コスト管理全般の知識や物流ABCについて学び、以降の講義にコスト意識も持って臨んでいただきます。

会場：
名古屋銀行協会

日時	講義名称	講義内容	講師
9月20日(木)	9:30-13:00 1. 物流コスト管理概論	なぜ物流コストを把握するのか、物流コストの実態、KPI、物流コストの算定、演習問題 等	藤田 浩二 氏 ロジ・ソリューション(株) 代表取締役社長 (第25期物流士)
	14:00-17:00 2. 物流ABCの活用	物流ABCとは、物流ABC活用手法 等	岡田 和典 氏 岡田ビジネスディベロップメント 代表取締役社長 (株)ZOO LABO 代表取締役社長
	17:00-17:10 振り返り 〈第1・2単元〉		

第3単元

物流拠点管理

物流拠点はロジスティクス戦略を決定する重要な役割を果たします。本単元では、物流拠点の実践的な管理技法や機器、システムについて学ぶとともに、物流拠点配置や庫内レイアウトの考え方をグループ演習で学びます。

会場：
名古屋銀行協会

日時	講義名称	講義内容	講師
9月26日(水)	9:30-12:30 1. 保管・荷役とマテハン機器	保管・荷役の機能、倉庫の種類、保管・荷役コスト、保管・荷役における改善のポイント 等	川島 賢 氏 鈴木(株) ロジスティクス事業本部 3PL 事業推進室 室長
	13:30-15:30 2. 物流拠点における IT 活用	拠点情報システムの役割と目的、導入プロセスとポイント、これからのWMSに求められる機能 等	樋口 聡 氏 NECソリューションイノベータ(株) 営業統括本部 主席プロフェッショナル
	15:40-18:00 3. 生産性と品質管理	物流プロセスにおける生産性・品質KPI、生産性向上の基本的考え方、多能工化のための教育 等	酒井 路朗 氏 エルディーシー研究所 所長
9月27日(木)	9:30-17:00 グループ演習 4. 物流拠点管理演習	物流拠点の役割・機能、流通チャネルと拠点配置、事例紹介、拠点・レイアウト設計演習 等 ※グループを再編成し、新たなメンバーとともにケーススタディに取り組みます	サカタウエアハウス(株)
	17:00-17:10 振り返り 〈第3単元〉		

第4单元		輸配送管理		本单元では輸配送管理に係わる各輸送モード、運賃体系、関連法規制、運行管理等や輸配送における最新 IT システムについて学んだ後、個人演習を通じて共同配送による効果の算出方法や輸配送システムの構築の考え方について学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
10月11日(木)	9:30-14:50	1. 輸配送管理概論	輸送モードの特徴、物流の共同化、モーダルシフト、運賃・料金体系、輸送関連の法制度 等	河村 大 氏 セイノーホールディングス(株) 経営企画室 室長 (第 30 期物流技術管理士)	
	15:00-17:30	2. 輸配送における IT 活用	輸送モード別 IT 活用の概要、支援技術、配車管理・運行管理・動態管理 等	(株)セイノー情報サービス	
10月12日(金)	9:30-16:30	個人演習 3. 輸配送システムの構築演習	輸配送システム構築のポイント、共同輸配送、クロスドッキング 等	坂 直登 氏 坂技術士事務所 代表	
	16:30-16:40	振り返り 〈第4单元〉			

第5单元		包装技術		包装は、サプライチェーン全体に深く関わっています。本单元では包装の目的や機能といった基本からロジスティクスにおける包装のあり方等幅広く学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
10月17日(水)	9:30-12:30	1. 包装技術概論	包装の機能と役割、包装起因の主要コスト要素、物流改善技法／デザイン・フォー・ロジスティクス 等	北山 義弘 氏 (同) 北山コンサルティング 代表	

第6单元		物流現場改善		物流業務の現状把握・分析・評価・改善をするためには、科学的管理技法の活用が有効です。本单元では、VA、IE、OR、QC といった科学的管理技法の基礎や物流現場における実践的な改善技法について、講義や演習を通じて学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
10月17日(水)	13:30-17:30	1. 科学的管理技法概論	管理技術とは、科学的管理技法（VA、IE、OR、QC） 等	渡邊 一衛 氏 成蹊大学 名誉教授	
	17:30-18:00	論文作成のポイント	講座初日のオリエンテーション時に出題した論文試験について、審査のポイントや良い論文例の説明を行います		
10月18日(木)	9:30-16:30	個人演習 2. 物流現場の改善技法	「問題」を知る、分析手法（稼働分析、ワークサンプリング、R-f 分析等）、物流改善の技法、改善事例 等	(株)日本能率協会コンサルティング	
	16:30-17:10	論文の作成に関する説明	論文の作成要領の再確認や注意すべきポイントの説明等を行います	事務局	
	17:10-17:20	振り返り 〈第5・6单元〉			

第7单元		総合演習Ⅰ		グループに分かれてケーススタディに取り組みます。架空企業の物流現場における輸配送や荷役作業、在庫管理等様々な問題点を分析し、改善策を検討することで業務改善や課題解決に取り組む際の実践力の強化を目指します。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
11月6日(火)	9:30-10:30	前期客観試験	前半講義（第1～第6单元）の講義の理解度を確認します	事務局	
	11:00-17:30	グループ演習 物流改善演習	架空企業の物流現場における、輸配送・在庫・荷役作業の問題点の整理や課題抽出等を行います	(株)日本能率協会コンサルティング	
11月7日(水)	9:30-17:00				
	17:00-17:10	振り返り 〈第7单元〉			

第8單元		在庫管理とSCM		商品ライフサイクルの短縮化やサプライチェーンのグローバル化に伴い、企業経営における在庫管理の重要性は高まっています。本単元では、在庫管理やSCMについて、理論と実践の両面から学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
11月15日(木)	9:30-12:00	1. 在庫管理とSCM概論	競争力強化・収益最大化に向けたオペレーションマネジメントとは、在庫管理、制約条件の理論と全体最適化指向 等	鈴木 定省 氏 東京工業大学 工学院 経営工学系 准教授	
	13:00-16:00	2. 在庫管理の実務	在庫管理とは何をすることか、適正在庫を維持する仕組み、効果の見方 等	芝田 稔子 氏 (株)湯浅コンサルティング コンサルタント	
	16:10-17:40	3. SCMの実務	実務におけるSCMの姿、SCMのモデル、SCMを的確に運用するための管理のあり方、SCMの課題 等	石川 和幸 氏 (株)サステナビリティコンサルティング 代表取締役	
第9單元		グローバルロジスティクス		市場のグローバル化が進展する中で、わが国企業が競争優位を確立するためには、グローバルレベルで最適なロジスティクスの構築が重要となります。本単元では、グローバルロジスティクスの概論、国際物流の基礎知識について学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
11月16日(金)	9:30-12:30	1. グローバルロジスティクス概論	国際物流（貿易・通関）の流れ、条約・制約・リスクの説明、IT、海外事例 等	鈴木 伸彦 氏 (株)ジュリアンウッドベル 代表取締役	
第10單元		グリーンロジスティクス		本単元では、ロジスティクス分野における環境問題を俯瞰し、法制度や行政の動向、環境負荷低減方策等包括的に学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
11月16日(金)	13:30-15:00	1. グリーンロジスティクス概論①	物流と環境問題の関係、行政施策の紹介、企業における環境問題への取り組み、環境問題への取り組み段階 等	矢野 裕児 氏 流通経済大学 流通情報学部 教授	
	15:10-16:40	2. グリーンロジスティクス概論②	環境問題と環境負荷指標、物流分野の環境対策、取り組み・連携事例の紹介 等	北條 英 日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所 ロジスティクス環境推進センター センター長	
	16:40-16:50	振り返り 〈第8・9・10単元〉			
第11單元		物流アウトソーシングと3PL		物流・ロジスティクス関連業務のアウトソーシング化が進む中で、最適なロジスティクスの構築・運用を図るためには、企業間の連携が重要です。本単元では、物流アウトソーシングの目的、3PL企業の役割及び契約のポイント等について学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
12月6日(木)	9:30-17:00	1. 物流アウトソーシング、3PL	物流アウトソーシングの目的、3PLとは、アウトソーシングと3PL、3PLプロバイダーの特徴 等	寺内 石一 氏 (株)フリーロケーション 代表取締役	
		2. 3PLと契約	契約の重要性、委託側・受託側のポイント、RFP、契約書の内容、サービス保証 等		
	17:00-17:20	論文の提出に関する説明	提出前のチェック項目、提出要領等を説明します	事務局	
第12單元		ロジスティクスの社会的役割		ロジスティクスは経営活動や国民生活を支える社会基盤としての役割も担います。本単元では、それらと密接に関連するCSR、標準化及び行政の動向について学びます。	会場： 名古屋銀行協会
日時		講義名称	講義内容	講師	
12月7日(金)	9:30-14:10	1. CSR	CSRとは、物流関連法規・下請法・独禁法・労働者派遣法等の説明 等 危機管理とリスクマネジメント、災害とロジスティクス、BCPとは、BCP策定のポイント 等	長谷川 雅行 氏 (株)日通総合研究所 経済研究部 顧問	
	14:20-15:30	2. 標準化	標準化の意義と方法、JISと標準化、物流標準化の今後、国際標準化の問題点・課題・対策、ユニットロードシステム 等		
	15:40-17:10	3. 行政の動向	物流と取り巻く現状、総合物流施策大綱、物流政策の紹介 等	経済産業省 中部経済産業局 国土交通省 中部運輸局	
	17:10-17:20	振り返り 〈第11・12単元〉			

第13単元	総合演習Ⅱ	グループに分かれてケーススタディに取り組みます。架空の3PL会社の担当者の立場となって、赤字を出している受託現場の改革を行います。講座で学んだ知識や技法を活用して、さまざまなアプローチから検討をすることで、この講座の受講成果を測ります。	会場： 名古屋銀行協会
--------------	--------------	--	----------------

日時		講義名称	講義内容	講師
2019年 1月17日(木)	9:30-10:30	後期客観試験	後半講義（第7～第12単元）の講義の理解度を確認します	事務局
	11:00-18:00	グループ演習 物流改革演習	架空企業の担当者の立場となって、赤字を出している現場の改革を行います ※プレミーティング時のグループ編成で、自身や他メンバーの成長を確認しつつ、課題解決を図ります	(株)ロジスティクス・サポート & パートナース
1月18日(金)	9:30-17:00	振り返り 〈第13単元〉		
	17:00-17:10			

面接試験	2月16日(土)	10:00-17:00	1名 15分程度の面接	会場：未定 (名古屋市内の会場を予定)
資格認定証授与式・懇親会	3月8日(金)	15:00-17:30	資格認定証の授与	会場：名古屋銀行協会

資格取得者の声

- パートナー会社に物流業務を委託しているため、業務が一部ブラックボックス化し、物流コストや品質が適正なのか判断できない状況でした。講座を通じて、パートナー会社との連携方法や物流管理、コスト管理手法について学習でき、とても参考になりました。(製造業、物流経験5年)
- 今まで知らなかった領域も含め、物流を体系的に学習するよい機会となりました。また、業務で活かせる内容も多くあり、実践していきたいです。(物流事業者、物流経験20年)
- 約半年の長丁場で業務との両立が大変でしたが、業種や年齢の垣根を越えた同期と人的ネットワークを構築できたことはとても財産になったと思います。受講の最中から同期に業務の相談などもでき、大変良かったです。(物流子会社、物流経験7年)
- ケーススタディに基づくグループ演習も多くあり、「実践」を意識した講座だったように思います。実務面では演習で学んだ手法も使い、成果を出したいと思います。(物流事業者、物流経験10年)



本講座に関する以下の情報をWEBに掲載しています。 ・2016年度「物流技術管理士」資格取得者所属企業一覧 ※2016年度資格取得者数：382名(194社) ・「物流技術管理士」資格取得者からのメッセージ ・講座での成果(優秀論文)のご紹介 など	www.logistics.or.jp または「JILS」で検索 トップ → 資格講座・セミナー → 資格認定講座
---	---

物流技術管理士専門委員会 委員一覧

(2018年3月現在。順不同、敬称略)

委員長 渡邊 一衛 副委員長 小野 義 〃 右田 政三 委員 興村 徹	成蹊大学 名誉教授 ロジ企画 ONO 代表 (株)ヨコエタープライズ 顧問 日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所 副所長 城西大学 経営学部 経営学研究科 准教授 (株)中央ロジスティクス 運輸事業本部 企画部 シニア・コンサルタント エルディーシー研究所 所長 (株)東京ロジスティクス研究所 顧問 坂技術士事務所 代表 元アクセンチュア(株) 製造・流通本部 マネージング・ディレクター 流通経済大学 流通情報学部 教授 海外調達支援 & 物流改革研究所 所長 (株)湯浅コンサルティング 代表取締役社長 (株)ロジスティクス・サポート & パートナース 代表取締役 (株)ダイワロジテック 代表取締役社長	委員 伊藤 秀行 〃 鈴木 三弘 〃 丹下 博文 〃 辻 公 〃 津田 博 〃 泉 康一 〃 岸本 保典 〃 佐久間 慎二 〃 寺内 石一 〃 浜崎 章洋 〃 深澤 一紀 〃 弥谷 恵太郎 〃 山名 良幸 〃 山根 六三郎	(株)ピー・アイ物流企画 代表取締役 サクラパックス(株) 経営企画本部 ロジスティクス推進室 室長 愛知学院大学 大学院 経営学研究科 教授 日本ロジスティクスシステム協会 JILS アドバイザー 近畿大学 経営学部 教授 経営学科長 (株)山星屋 物流システム部 次長 (株)ケー・シー・エス 取締役 営業推進部 部長 日本ロジスティクスシステム協会 JILS アドバイザー (株)フリーロケーション 代表取締役 大阪産業大学 経営学部 商学科 教授 (株)サーガ 代表取締役 ハリマ共和物産(株) 非常勤監査役 鴻池運輸(株) 西日本支店 総務部 部長 シンク・テック・サービス(株) 代表取締役
--	---	--	--

受講申込書

申込FAX:052-588-3012

受講申込規程

受講料 ※ご入会につきましては、お申し込み前に事務局までお問い合わせください。

日本ロジスティクスシステム協会会員	総額 486,000円 ／1名 (受講料450,000円+消費税36,000円)
上 記 会 員 外	総額 594,000円 ／1名 (受講料550,000円+消費税44,000円)

●有資格者優待

当協会の認定する下記資格を持つ方は優待料金にて受講いただけます。
該当する方は受講申込書の有資格欄に資格名称をご記載ください。
(対象:物流技術管理士補、国際物流管理士、グリーンロジスティクス管理士、物流現場改善士)
◆日本ロジスティクスシステム協会会員 …… 総額432,000円(受講料400,000円+消費税32,000円)／1名
◆上記会員外 …… 総額540,000円(受講料500,000円+消費税40,000円)／1名

受講料に含まれるもの

- テキスト、資料代
- 審査料

受講対象

物流に関する基本的な用語を理解している方
(目安として、物流実務経験2年程度)
もしくは物流技術管理士補の有資格者。

受講定員

50名

受講申込方法

- WEBまたはFAXで受け付けています。

WEBの場合

当協会ホームページの本プログラムのページよりお申し込みください。

[トップ](#) → [資格講座・セミナー](#) → [資格認定講座](#) → [物流技術管理士資格認定講座](#)

※当協会のホームページは www.logistics.or.jp または「JILS」で検索してください。

※QRコード読み取り機能のあるスマートフォン等をお持ちの方は右記
QRコードを読み込みアクセスすることもできます。

※QRコードは画面の傷、汚れ、光の反射等によって読み取れない場合があります。

※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

FAXの場合

- 下記の申込用紙に必要事項を明記のうえ、FAXにて事務局までお申し込みください。
- 「参加証」と「請求書」は受講日の約1週間前までにお送りいたします。お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。
- 本講座の受け付けは、先着順、定員になり次第、締め切らせていただきます。あらかじめご了承のほど、お願い申し上げます。詳しくは事務局までお問い合わせください。



受講料支払い方法

- 請求書が届き次第、指定銀行の口座にお振込みください。
- お支払いは、原則として開催前日までをお願いいたします。
(開催後になる場合は、入金予定日を受講申込書の支払予定日欄に明記してください。)
- 振込手数料は、お客様にて負担願います。
- 【お願い】
- 受講予定の方のご都合が悪い場合は、全単元を代理の方が受講ください。なお、代理の方のご受講も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。
(注)キャンセルは、FAXでのご連絡のみ申し受けます。

【キャンセル規定】	開催30日前～15日前(開催日初日を含まず起算) …… 受講料の10%
	開催14日前～8日前 …… 受講料の20%
	開催7日前～前々日 …… 受講料の30%
	開催前日および当日 …… 受講料の全額
	※キャンセル料は原則として消費税を除く受講料をもとに計算

ご注意

- テキストは会場でお渡しいたします。テキストのみの販売はしていません。
- カメラ、録音機等の持込みはご遠慮ください。

受講申込先・プログラム内容の問い合わせ先

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 中部支部
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南4-12-17
TEL:052-588-3011 FAX:052-588-3012

会場案内

名古屋銀行協会
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2丁目4-2
TEL:052-231-7851

個人情報の取り扱いについて

日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。
詳細は、当協会のプライバシーポリシー (<http://www.logistics.or.jp/privacy.html>)
をご覧ください。なお、ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本講座に関する確認・連絡・受講
者名簿の作成および当協会主催の関連催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

●第131期(名古屋開催) 物流技術管理士資格認定講座●				LA1851
(フリガナ) ()	□ 会 員	支払予定日(開催後になる場合はご記入をお願いいたします)		
会社・事業所名	□ 会員外	月	日	支払予定
(フリガナ) ()	所属・役職名			
派遣責任者				
勤務先住所 〒	—	T E L: — —		
		F A X: — —		
		E-mail:		
(フリガナ) ()	所属・役職名			受付NO
受講者1				
勤務先住所 〒	—	T E L: — —		
		F A X: — —		
物流実務経験(年) □ 有資格(資格名称:)	E-mail:			
(フリガナ) ()	所属・役職名			受付NO
受講者2				
勤務先住所 〒	—	T E L: — —		
		F A X: — —		
物流実務経験(年) □ 有資格(資格名称:)	E-mail:			
名		円		※請求書は原則として合計金額を派遣責任者の方にお送りいたします。 その他、請求先のご希望は「協会への連絡事項」へご記入ください。

協会への連絡事項	受付日	請求日	請求番号